

三重県建設産業活性化プラン2024【計画期間:令和6年度～令和9年度】

策定の趣旨

地域の建設業は、県民の生活に必要な社会資本の整備・維持管理はもとより、災害時の緊急対応など、「地域の守り手」として県民の安全・安心の確保に重要な役割を担っていますが、現在、建設企業の多くは、就業者の高齢化や若手入職者の減少、2024年4月から始まる時間外労働の上限規制、生産性向上に向けた建設DX導入への対応など、多くの課題を抱えています。このため、これらの課題を解決し、今後も地域の建設業が「地域の守り手」としてその役割を担い続けられるように、三重県建設産業活性化プラン2024を策定しました。

三重県建設産業活性化プラン2024

令和6(2024)年度～令和9(2027)年度

地域を支える建設業の将来像イメージ



令和6年4月

取組方針

【取組方針1:担い手の確保】

「担い手の確保」では、新卒者やU・Iターン人材の建設業界への入職が定着するよう、①教育機関・建設業界・行政が連携し、②生徒・学生への魅力発信・動機付け等を行うとともに、③U・Iターン人材等への働きかけに取り組みます。

【取組方針2:労働環境の改善】

「労働環境の改善」では、自分・家族の時間が大切にできるよう、①週休2日制の定着や②施工管理の効率化・分業化による労働時間の削減に取り組みます。また、就業者が業界に定着するよう、③安全で快適な労働環境の実現を目指すとともに、④人材育成や福利厚生が充実するための支援などに取り組みます。

【取組方針3:生産性の向上】

「生産性の向上」では、①建設DXの導入を支援し、ICTやBIM/CIM等の②建設DXの活用を促進させるとともに、新技術の活用等、③建設DXの持続的な推進に取り組みます。

【3つの取組方針を支える企業の安定経営に向けた取組方針】

「担い手の確保」、「労働環境の改善」、「生産性の向上」の取組方針にある施策を推進していくため、建設企業の経営状況の確認と適正な利潤の確保などに取り組みます。

◆ 各取組の関係性のイメージ



3つの取組方針のうち、建設DXを活用する取組は「取組方針2 労働環境の改善」と「取組方針3 生産性の向上」です。各取組は、それぞれ令和9年度までの目標値を設定し、取り組んでいきます。

取組方針2 労働環境の改善

自分・家族の時間が大切にできるよう、①週休2日制の定着や②施工管理の効率化・分業化による労働時間の削減に取り組めます。また、就業者が業界に定着するよう、③安全で快適な労働環境の実現を目指すとともに、④人材育成や福利厚生が充実するための支援などに取り組めます。

取組施策		取組項目
①	週休2日制の定着	1. 週休2日制（4週8休）の定着 2. 市町発注工事における週休2日工事の促進 3. 民間発注工事への周知・促進
②	施工管理の分業化・効率化	1. 施工管理の社内分業化への支援 2. 施工管理の効率化の支援
③	安全で快適な労働環境の実現	1. 施工現場の安全確保（事故防止の徹底） 2. 誰もが快適に働くことのできる職場環境の整備
④	人材育成・福利厚生	1. 技術の継承と処遇改善 2. 福利厚生等の充実

取組方針3 生産性の向上

①建設DXの導入を支援しICTやBIM/CIM等の②建設DXの活用を促進させるとともに、新技術の活用等、③建設DXの持続的な推進に取り組めます。

取組施策		取組項目
①	建設DXの導入	1. 建設企業のDX導入の支援
②	建設DXの活用	1. 建設DX研修による人材育成 2. ICT活用工事の推進 3. BIM/CIM活用、支援
③	建設DXの持続的な推進	1. 新技術の活用

建設DXの取組該当項目

受発注者の労働環境の改善、生産性の向上を目指し、情報共有システム(ASP)の導入を進めています。

情報共有システム(ASP)の展開

【R5年度】
ASP本格導入開始
 実施150件(1月末時点)

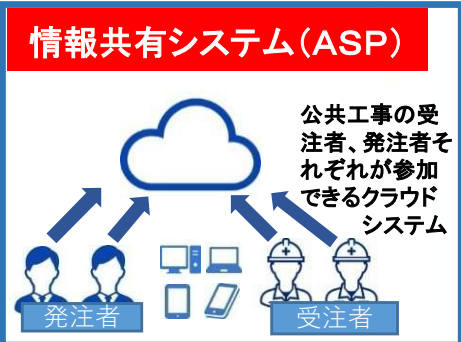
R6～
ASP活用拡大

建設DX
 促進説明会

オンラインシステム活用人材
 育成のための講習会

【R9年度目標】
Aランク建設企業の
ASP活用率100%

ASPを活用企業(土-Aランク) /
 三重県発注工事受注企業(土-Aランク)



情報共有システム(ASP)活用により

- ・ 工事書類を情報共有システム上でやりとりすることで、時間・場所を選ばず、そして移動コスト(時間・経費)を削減。
- ・ 工事現場事務所でASPを活用するためインターネット環境を整備することで、遠隔臨場、ライブカメラの活用が可能となる。
 →遠隔臨場実施により、段階確認などを効率的に実施できる。
 →バックオフィスの活用範囲が拡大(出来形測定も可能など)
 →会社と現場事務所を繋ぐ回線により勤怠管理やWeb会議などの活用により現場直行直帰も可能となる。

ASP導入を契機に、様々な建設DXの取組を展開していくことで、様々な工程を効率化させて時間を生み出すことと、様々な働き方を実現する。

↓
建設現場の
労働環境の改善・
生産性向上を図る

目指す姿

建設現場生産性向上
 ↓
魅力ある建設現場
 週休二日の確保
 時間外労働上限規制
 ↓
担い手確保

R6年度の取組(建設産業活性化プラン2024)

青:労働環境の改善 緑:生産性向上

- ・ 県職員、市町職員に対する説明会の開催 ②-1
- ・ 建設企業に対する建設DX促進説明会の開催 ①-1
- ・ 建設企業に向けた先進事例や活用事例を掲載したガイドブックの作成・周知 ①-1
- ・ 遠隔臨場などオンラインシステムを活用できる人材の育成支援のための講習会開催 ②-1



R6年度の目標

- ◎ 県発注工事のASP利用指定発注率40%を目指します。
- ◎ 県発注工事のAランク建設企業のASP活用率30%を目指します。

※ASPを活用企業(土-Aランク) / 三重県発注工事受注企業(土-Aランク)

移動や待機時間の削減による**受発注者の業務効率化を図るため**、遠隔臨場の取組を進めています。

建設工事における遠隔臨場

- ・令和4年7月から県土整備部が発注する全ての建設工事に適用を拡大
- ・施工状況の確認、使用材料の確認等で遠隔臨場を活用



説明会など、受発注者への普及啓発を実施しているが、十分に活用されていない状況。

※遠隔臨場実績
令和5年度
16件(4.4%)
(9月末実績)

建設工事における遠隔臨場

動画撮影用のカメラ(ウェアラブルカメラ等)により取得した映像及び音声を利用し、遠隔地から Web 会議システム等を介して段階確認等の現場確認を行います。

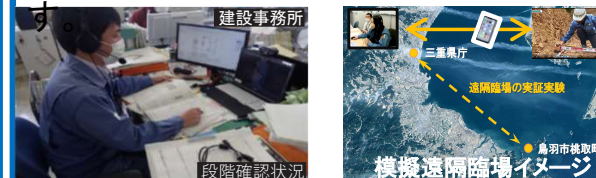
出来形確認



施工状況確認



現場密度確認



R6年度の取組(建設産業活性化プラン2024)

青:労働環境の改善 緑:生産性向上

- ・県職員、市町職員に対する説明会の開催 ②-1
- ・ライブカメラや遠隔臨場で現場の安全管理を行うなど、現場の事故を防止する取組を実施 ③-1
- ・建設企業に対する建設DX促進説明会の開催 ①-1
- ・建設企業に向けた先進事例や活用事例を掲載したガイドブックの作成・周知 ①-1
- ・遠隔臨場などオンラインシステムを活用できる人材の育成支援のための講習会開催 ②-1



ライブカメラを活用した施工現場の確認



市担当者向け説明会



受発注者向け説明会

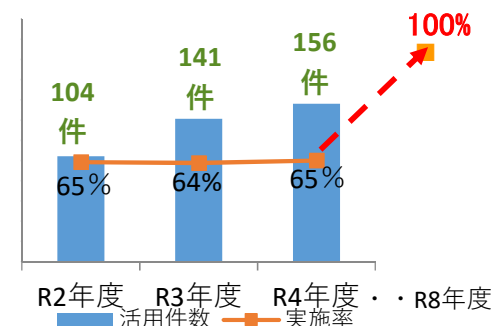
平成30年度から、建設現場の生産性向上を図るためにICT活用工事を実施

ICT活用工事の施工プロセス 【建設工事の5つのプロセスでICTの活用を促進】



取組の現状

- ・活用件数は着実に増加
- ・みえ元気プラン目標ICT(土工)実施率100%(R8)に向け取組を実施



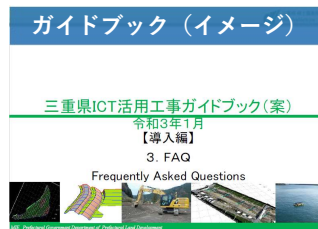
R6年度の取組(建設産業活性化プラン2024)

緑: 生産性向上

- ・建設企業に対する建設DX促進説明会の開催 ①-1
- ・市町職員に対する説明会の開催 ①-1
- ・建設企業に向けた先進事例や活用事例をガイドブックを作成して周知 ①-1
- ・発注者による3次元測量の実施と受注者への3次元測量データの提供 ①-2
- ・現場条件を反映した設計価格の算定検討 ①-2
- ・建設企業がICT活用工事について相談ができる窓口の開設 ①-2
- ・建設企業に対して、自社で建設DXに取組めるよう、初中級、上級等のステップアップできる講習を実施 ②-1



建設DX促進説明会開催案内



市町職員へ建設DXを説明

R6年度の目標

ICT(土工)
実施率86%
(R5実績: 70%)

※みえ元気プラン
R8年度目標
ICT(土工)実施率 100%

適用工種の拡大
構造物工(橋梁上部)
を新規追加し合計18工種
の要領により、あらゆる工種
で生産性を向上させます

調査、測量から維持管理における一連の**建設生産・管理システムの効率化を図るため**、BIM/CIMに取り組んでいます。

取組の概要

建設生産・管理システムの効率化に向け、設計業務からBIM/CIMの試行に取り組んでいます。

従来

紙(2次元)を主体とした設計業務

現場とあって
いるかな??

2D設計では図面から
想像するしかない

2次元図面

住民に理解して
もらえるかな??

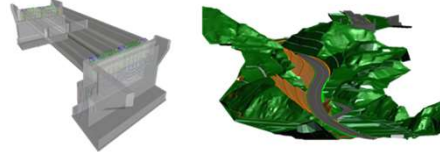
2D設計では関係者に
理解してもらうのが困難

BIM/CIM

デジタル(3次元)情報を併用した設計業務

橋梁設計の例

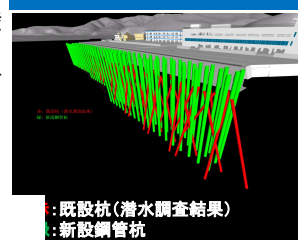
道路設計の例



BIM/CIMの試行導入イメージ

※
港湾岸壁
や道路、
橋梁設計
などに
おいて
BIM/CIM
を活用
しました。

既設杭との干渉確認などに活用



既設杭(潜水調査結果)
: 新設鋼管杭

住民説明資料などに活用



BIM/CIM

Building / Construction
Information Modeling,
Management

調査・計画・設計段階からBIM/CIMモデル(詳細は後述)を導入し、その後の施工、維持管理の各段階においても、情報を充実させながらこれを活用することで。

あわせて事業全体にわたる関係者間で情報を共有することにより、一連の建設生産・管理システムにおける受発注者双方の業務効率化・高度化を図ります。

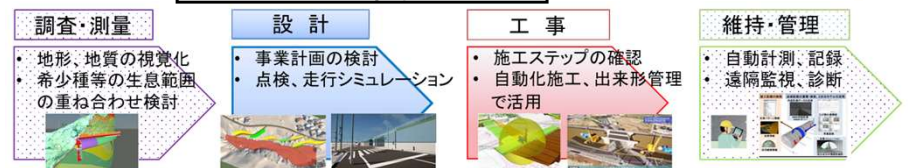
期待される効果

- 可視化による設計ミスの防止や施工時における手戻り防止
- 現場を3次元で再現することで事業等を正確でわかりやすく関係者に伝える

R6年度の取組(建設産業活性化プラン2024)

緑:生産性向上

BIM/CIMによる事業の進め方



・建設事業で3次元モデルが活用できるよう、受発注者間でのBIM/CIM成果の共有を実施 ②-3

・発注者による3次元測量の実施と受注者への3次元測量データの提供 ②-3

3次元測量



3次元点群データ



設計 R3~試行



工事

R6~試行

R6年度の目標

◎BIM/CIM成果の活用工事件数: 5件

設計段階で作成された3次元モデルなどを活用

施工計画の検討補助 現場作業員等への説明

